

1. 気づいたこと

- ・人権を考えることは楽しい。
- ・人それぞれ思いがある。
- ・話をする事。コミュニケーションをとることが大切。
- ・いかに関心がない人に、この取り組みを広げていくか。
- ・国などの施策面にあまり期待していない自分に気づいた。
- ・子どもには子どもの都合がある。
- ・子供の権利侵害の事例を聞くと怒りモードになる自分に気づいた。まだまだ権利意識が浸透するには時間がかかるんだろうと感じた。
- ・思い込みの力は大きい、そして頭でわかっているけど行動することはなかなか壁がある。でもやっぱり変えていかないと社会のあり方が暗くなってしまうこと。
- ・自分が考えもしなかったことや思ってもみない意見がたくさん出てきた。
- ・自分も無意識に差別をしまっていることが多かった。
- ・自分も無意識に差別してしまっていることが分かった。
- ・改めて思ったのは、いちいち細かい法、条例を作らなければ、人として当然のことがわからないのが日本社会なんだなあと思った。日本は表向きはいかにもユートピアみたいな国を装っている実態は上っ面だけの国、よくテレビ、新聞のニュースを含めよくわかった。
- ・子ども、外国人とテーマは異なっても根っこにある課題（社会の仕組みが追いついていないとか、個人の意識ないとか。）は同じ。
- ・国のことは大きすぎてピンとこないことが多かったが、外国人に対する法律があまりにぞんざいなのがショックを受けている。まるで人格などないと思っているみたいだ。
- ・相手の立場になって考えてみる事、行動することが大切である。
- ・上の立場からの支援は必ずしも受容されていない。
- ・お互いの違いを認め合い、相手の立場に立って物事を考える。
- ・自分が差別意識を持っている。「がんばることが大切。」
- ・制度面からも心の面からもアプローチはもっといる。
- ・余裕のなさ。ありのままでもいいと感じづらい社会、学校、世の中だ…。
- ・人間は平等であると言われていても、昔から人権的に弱い人たちはいた。今は弱い人たちがさらに弱い立場に追いやられている。
- ・豊田の例から法律を整備が不十分だということ。
- ・みんなで考えるのは楽しい。例え難しいテーマでも。
- ・参加された方々は“話し合いたい”と思っていることが分かり、嬉しかったです。
- ・人権について共に考える機会の重要性、自分の考えや行動が差別につながっていないか、

自問する機会にワークショップのコミュニケーションの中でもそう接しながら感じた。

・改めて「知る」「気づく」「築く」ことを何度も繰り返し、自分をブラッシュアップさせることの必要性に気づいた。 → 「気づきの築き」

・参加型はやっぱり楽しい！ファッションには参加者の背景に思いを馳せる想像力が必要だ。

・差別の原因と背景。

・人権についてのイメージは人による違うだろうし、自分の意識についてははっきりとしたイメージを持っていない部分もある。話しやすい内容から入り、グループで討議したり、他のグループの考えを聞くことで、人権に対するイメージが広がった気がします。事例についてはもう少し時間があると良いと思いました。

・無知が差別を生むということ。

・自身の人権に対する考えや行動を言葉や文字にすることで課題が明確になった。今後の取り組みに活かせたらと思う。

・人権の問題の所在が人それぞれに捉えが違う。生きてきた環境が違い、価値観も違うから当たり前だが、人はそれを絶対と考え、正当だと思ふ。その差異からも人権差別は生まれたと本人は感じる。

・県がこのような催しをしていることを初めて知った。

・社会全体の効率優先文化を変えないと一人ひとりの人権は守れない。

・グループの方も同じ意見が多く、うなずきあえて嬉しかった。

・アドボカシーやアドボケイトのことを知っている人がいた。

・子どもや外国人の人たちが差別を受ける、不当な扱いを受けている現状は、個人の意識、社会の仕組みが作り出していること。

・道徳など人権について様々な学んできたはずなのだが、「人権教育」だと思わなかったので、人権と意識して考える機会がなかった。

・人権尊重の社会づくりは「話す／聞く」が大切（スタート）。

・話し合い（対話）には時間がかかる。

・各々の行動、宣言より余裕のある社会、居場所をつくる。挨拶を増やすはなるほどと思った。

・自分が気づいていない差別がたくさんあるということです。

・法律のことをちゃんと知らない自分。

・背景が違う人と話をすると発想が広がる。

・条約、法令を整備しただけでは変わらない。（県の個人人権課題の資料を見て）

・法律の知識。

・周知、整備。

・外国人だけではなく、子どもにとっても対話と交流が重要だということ。

・中学の卒業証書をもらえない外国人の子どもがいたこと。

・まだまだ子どもや外国人の問題は本当のところが一般化されていない。

- ・現状は諦めモード→幸せの実感、自己肯定感、夢が持てない。
- ・固定概念、頭の硬さ、行動の画一化。
- ・自分だけが良ければいい。(無知、無感心)
- ・本日の人権課題では知らないことが多く考えさせられました。「子ども」では、現実問題として起こっていること。また大人が行っていることが全く逆であること。
- ・「外国人」もう少し外国人の子どもへの教育体制はその子に応じた個の対応が必要だと思いました。
- ・多くの参加者が関心が高く、すでに行動している方々であり、刺激と発見があった。
- ・まだ、この場につながっていない方々が多いということ。
- ・知らないことは多い。
- ・外国人参政権、差別禁止法、ヘイトスピーチ対策に賛成の人が多い。
- ・色々な市民活動が満足な形で結果が出ないことも多いことが分かりました。

2. 大切だと思ったこと

- ・一緒に考える。
 - ・個々を理解する。
 - ・大切
 - ・少しでも広めること。
 - ・自分の中にある「正しさ」「当たり前」を疑ってみる。
 - ・あいさつからコミュニケーションが始まる。
 - ・信頼関係を築く。
 - ・どんな人も台頭に意見をきかれる社会と人権教育。
 - ・考える“場”に立ち、考えて「やっぱり大切だよな」と思うこと。自分に力をつけること。
- 新しいことを知ること。
- ・自分だけの考えじゃなく、対象となる人々の考えを聞きより多くのことを取り入れること。
 - ・国の前に、まずは、自分が変わっていくことが大切だと思った。
 - ・人としてどう生きるか、どう社会と関わっていくか、人とどう変わっていくか、人との関わり方。
 - ・すごく当たり前だけど、一人ひとりを大切にすること、自分を大切にすること、自分を大切にしてほしいと伝えて“あなたは大切だ”と伝えていくこと。
 - ・聞こえない、見えない声をどうやって救い上げるかが課題で、個人としては皆、人権に対して意識を高め、行動していく必要がある。
 - ・一人ひとりの声を聴くこと。
 - ・国の経済的支援も大切であるが、罰則を与えなければ差別を禁止してもダメである。
 - ・正しい人権教育の実施、「臭いものにはフタを」の意識をなくしてほしいし、なくすべき。
 - ・相手の立場に立った支援。
 - ・弱者への配慮
 - ・多様な視点で物事を考える。
 - ・耳を傾ける。
 - ・安心できる居場所があるということ。
 - ・自分自身のケア、メンテ、余裕。→まわりをみる、うけいれる姿勢。
 - ・感情、ニーズ（願い）←自分のも、相手のも大切にする。
 - ・自分が差別する、差別されることに気づかないことがあるけど、出来る限り敏感でいたい。
 - ・すべての人間に人権があるということ。
 - ・気づいたら行動すること。
 - ・人権の話をする機会。
 - ・私たちが、道徳で学んだ内容ではない本当の人権教育をもっといろんな人に学んでほし

い。

- ・最前線で活躍する人を支援すること。
- ・現場の声をつたえること
- ・知ろうとすること、正しい情報課確認すること。
- ・文化的暴力をなくす努力をすること。
- ・公平、公正な日常を創ること。
- ・カテゴリーを自分の中でつくって人とコミュニケーションをとることは、差別につながるのでは。
- ・自分が「在日地球人」としての意識を高めること。
- ・初めて会った人たちと icebreaking を経て、一緒に考えて活動する中で、「なかま」感覚ができてくるーそれがとてもいいと思った。
- ・国レベルで法整備を求めつつ、個人として、まず、ひとりひとりの自尊感情を育ていき、そこを土台にして、他人の尊厳に目を向けること。
- ・学校教育の中で、人権について、改めて考え、実行すること。
- ・大人は、人権を感じられない社会の中で、今まで感じて過ごしてきた価値観があって、優劣にいつもさらされている？とか、立派じゃないといけないとか、自分のそれを弱さを子どもにみせられることも子どもと同じ目線で一緒に社会を考えていく仲間として大事なのかなと思った。今までそのような場所でも生きてきた自分にもがんばったねという思いとともに。
- ・「自立を促さない」です。
- ・無関心からの脱皮。
- ・やはり直接会って話し合うことは大切だと思った。特に、人権はセンシティブな内容もあるので、こういうワークショップは有効だと思います。人権について、直接話し合うことは大切だと自覚できました。
- ・交流、対話、差異を解消しないこと。
- ・支援する、される関係をやめること。
- ・行政と地域、学校、会社、個人の交流、対話の場。
- ・人権問題が全て解消させることの難しさもあるが、最適解を求めることが大切だと思う。
- ・同机に座った他の 4 人の意見を聞くことができた。当事者の意思を聞き尊重することが大前提だと全員思っていることが知れてよかった。
- ・当事者の声を聞くこと。何が起きているかを知ること。
- ・気づいたら行動すること。
- ・決定権（決定権を持つための教育を全ての教科でできているのか？）をもっているということの大切さ。
- ・個人の困りごとを個人の問題で終わらせない。（社会とのつながりで考え、社会を変えようと働きかけることが大切。）

- ・意見をちゃんと聞くことが社会全体でまず大切。
- ・警察など公務員が人権研修を受けること。
- ・相手意識をもつこと、情報を正確に受け取ることが大切だと思いました。
- ・「自分は分かっている」と思わないこと。
- ・安心安全に人権のことを話せる場とその場を運営するスキルを多くの人がみにつけること。
- ・関わること、知ること。
- ・価値観の共有
- ・外国人の人が参加、活躍できる仕組みが必要。
- ・あの人達ではなく、個々におきていることの統計が広まらないとはじまらないのでは…
- ・自分事として関わること（知ること、参加すること、行動すること） →世論は社会を変える（一人ひとりの行動は小さくても 100 人の一歩は 100 歩になる！）
- ・課題の発信と対策を行っていくことが改めて分かった。個人、企業として何ができるか、何をしなければいけないのか。
- ・時間を作り、出かけること。今日参加してよかった。
- ・当事者の声を聞くこと。

3. これから実行しようと思ったこと

- ・海外の事例を含めいろいろ知る。
- ・いろんな意見を整理する。
- ・いろいろな課題を知る。
- ・人の想いに心を寄せる！！
- ・コミュニケーションをとる、様々な人と会える機会を作る。
- ・今回のことを近くの人に話していく。
- ・元気よくあいさつ
- ・傾聴
- ・相手の感情・気持ちに寄り添う。
- ・自然体で接する。
- ・今やっている、子どもの声を聴くことを続ける。
- ・権利について伝えていく。
- ・自分自身の意識の点検もしていく。
- ・自分の「当たり前」を当たり前せず、「これでいい？」か考えること。
- ・人権教育に参加すること。
- ・人の話をきくこと、話してみることに、本を読むこと。
- ・自分から率先しえ、いろんな場所に出向く
- ・よりそう（様々な人に）
- ・偏見をもたずに関係を築く。
- ・「子供の最善の利益」を考える。
- ・自分を大切にする。
- ・色々な人とコミュニケーションをとる。
- ・子どもの利益を最優先に考えるが一応、日本の国のタテマエになっているので（法律等）海外にルーツをもつであろう方も含め、子どものことを早急に解決できるような提案、パブリックコメントを行政に働きかける行動をしたいです。国を動かすのは行政ですので…
- ・楽しみながら交流の場、話し合える場、認め合える場をどうしたらできるか企画する。人権は恐くない、暗くない。人権という言葉を使って語ろう。
- ・私は弱い立場の者の居場所、相談する入口的なものをつくることが目標である。 17

- ・周りの人たちにも正しい人権意識を広げていきたい。
- ・相手の立場に立ち、その立場になったとき、何を必要とするのか考えるようにしていきたい。
- ・地域のコミュニティーの中に参加してもらえるようにする。
- ・地域で交流事業を考える。

- ・海外にルーツをもつ子どもたちの保護者にも寄り添う。
- ・相手の望みをまっすぐに見る。
- ・自分の実践で満足するのではなく、職場で人に広げていくこと。
- ・(経済的、時間的な余裕との兼ね合いですが) 気軽にふれあえる、分かち合える拠点がつくりたい。つくりたい。つくりたい。
- ・(父子家庭) 困っている子どもが近所にいるので(家庭で見守っています) 対応できたら、できることをやっていきたい。
- ・日本語教育ボランティアが少ないので、いろんな人に声をかける。
- ・外国のルーツを持つ子どもたちといっしょにいる日数を増やす。
- ・子どもを自由に遊ばせる。
- ・地域をまきこんで活動を広める。
- ・生の声を聴く機会を逃さないようにする。
- ・今できることは必ずする。
- ・おかしいことをおかしいという。
- ・まずは相手の気持ちや考えていることを聞いてから、自分のアイデアを伝える。
- ・外国人の友達を増やす。
- ・誰にでも暖かい(肯定的な)言葉声掛けを心がける。
- ・諸外国の人権教育や人権啓発の取り組みについて調べて学ぶ。
- ・人権啓発キャラバン事業と同趣旨の事業を他の自治体で実施するために、行政に働きかけたい。
- ・アイスブレイク、アクティビティのブラッシュアップ
- ・参加型授業実践の強化
- ・生徒の人権意識を高めること
- ・授業の中で、雑談で、生徒の自尊感情を育みたい。
- ・校内でWSを増やしていきたい。
- ・今後も刺激を求めてWSに参加したい。
- ・自分の考えを空気を読みながら発言するでない方法を学びながら(アサーションですか?) 知らない場所に踏みこんでみる。
- ・自分の人権を知る。そして、相手の人権を知る。
- ・まずはじぶんを大切にしつつ、ボランティアをします。貧困問題を抱える教え子に関わり続ける。
- ・興味、関心をもつ
- ・差別をしない(減らす)、思考、発言、行動
- ・人権をテーマに、直接話しあう機会をぜひ作っていきたい。家庭でも地域でも様々な場所でこのようなワークショップを作るのもよいし、お茶を飲みながら話すのもよいと思う。こういうスタイルを広げていければと思います。

・まず知ることです。興味がなければ、知ろうとしなければ、正しい知識を得ることができない。それが差別につながるからです。次に積極的に多様な人々との交流の場に足を運ぶことです。様々な人々と直接触れ合うことで、身にしみてわかることがあると思いました。イベント等で発言・発信していくことも行っていきたいです。

・行政、地域への協力、参加、人権教育(現在も実践中、路上、大学、市民向け…etc.)

・職場で県プランと合致した行動計画を策定し、経営案に示し、具体的に全児童と進めていく。いつかお見せできるようにがんばりたいです。

・外国人の寄り添いの活動をこれからも続けたい。非正規滞在者の正規化への道すじを作る制度化への広報活動を生涯の仕事にしていきたいと思っている。

・相手の立場に立って考える。

・誰に対しても一人の人として尊重する。

・無意識の偏見がないかセルフチェックする。

・今やっていること（子どもアドボカシー）を続けること。

・伝えること、広げること。

・わかってもらえなくても、くじけず続けること。

・主体的に考えそれをアウトプットする。経験を・・・・・・・・

・日本語で伝える力を育てること。

・“伝えられた”という機会をもつこと。

・パブリックコメント等、社会に声を伝える真正な教育

・シティズンシップ教育について、もっと勉強したい。

・自分を大切に。→他者の声を聴くゆとりを作る。

・NPO/NGOのサポート

・他の分野のとりくみをもっと知る。良いとりくみをしている団体はたくさんいるのだと再認識しました。

・ワークショップのことを知人、職場で伝える。自分の身近から聞くことの実践。

・まずは、自分から知ろうとすること、行動をおこすこと、自分を大切にすることです。自分を大切にすることで、他の人も大切にできるといいなと思います。

・法律を使えるものにしたい（自分にも、まわりの誰かにも）

・海外での経験をシェアする機会を持つ。

・子どもたちの声をもっと聴いて、それを伝えていくこと。

・第三回に参加

・新しいことを学ぶだけの「スキマ」をつくる。

・(標準家庭を築いていない) かわりものとして自然体で生きる→多様性のひとつのあらわれとしていく。自分のマイノリティ性を否定しない

・子ども、外国の人、マイノリティの人、いろんな人たちが交流する場、イベントだったりを作る。

- ・知識のアップデート→情報を広める。
- ・子どもと大人が人として対等に話せる場をこれからもつくる。
- ・子どものことは親じゃなくても子ども本人に聞く、話す。
- ・外国の方と接点をもてそうなイベントなどに参加する。
- ・多様な文化に興味を持ち、学ぶ。
- ・違いを認め、受け入れる。
- ・人権に関するイベントに参加・企画する。
- ・これまでもこれからもだがNPOや市民活動を一般化するにはについて取り組む。
- ・知らないと言わない→知る努力をする→参加していく→交流の場
- ・今日の講師は、愛知人企連で読んで話をしてみたいですね。
- ・差別被害をうけた人のサポート
- ・学び
- ・愛知県、県内市町村に対し、人権施策推進の働きかけ
- ・広げる
- ・参加する
- ・地道な活動を続ける。
- ・マイノリティの人と直接交流する機会を増やしたい。
- ・気持ちの余裕をもちたい（持つ方法を考えて実践）